

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2023年度 第2号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2023年11月29日発行



皆様、是非セミナーに足をお運びください！

関西英語教育学会幹事長 平野 亜也子（京都産業大学）

ここ数年、全くの専門外である課題解決や COIL (Collaborative Online International learning) 型教育の授業を担当しているため、少しでも知識を入れようと、通勤時間に行動心理学をテーマにしたポッドキャストを聞いています。その中で、サンクコスト効果 (sunk cost effect) の説明を聞き、「自分を含め教員ならば、この効果の影響を受けている人がいるのではないだろうか」と感じました。サンクコストとは、すでに投資した資源（時間、労力、お金など）のことで、本来なら取り戻すことのできないものです。そして、それまでの費用や労力を惜しんで固執するあまり、将来に向けた合理的な判断ができなくなる心理的効果を、サンクコスト効果と呼びます。ビジネスの場で使われることの多い言葉ですが、このサンクコストに固執する様子は、教員にも当てはまるかもしれないと思いました。

例えば、授業で繰り返し使用したテキストにはこれまでの経験に基づく書き込みがあり、その書き込みには労力を費やしています。また、そのテキストを使用することで、「過去の授業で上手くいった」成功体験に基づく指導もできます。一方で、学習者の将来、テクノロジーの進展、そして学習者の環境変化に焦点を当てるならば、それまでのサンクコストは捨てて授業内容を一新する必要があるかもしれません。さらに、技術革新や環境変化のスピードを勘案すると、相当な頻度でのアップデートが必要かもしれません。

しかし、このアップデートに必要な情報収集や実践に移す試みは、教員個人の努力では限界があるのではないのでしょうか。大変な労力が必要なのではないのでしょうか？

会員の皆様、このような環境であるからこそ、是非、関西英語教育学会のセミナーに足をお運びください。当学会では、コロナ禍以前のスタイルに戻そうと、対面での学会開催に重心を置くように努めております。さらに、泉会長、横川副会長を始め幹事および理事の先生方が、最新情報をキャッチできるようにアンテナを張り、研究セミナーの企画に尽力してくださっています。また、どのようなアップデートが必要で何をそぎ落とせば良いのかなど、当学会が皆様の活発な意見交換の場として機能することを目指しております。

オンライン開催では叶わなかった、会員の皆様との意見交換の場が、ようやく戻ってきました。昨今は、「ChatGPT の出現で英語教育はこれからどうなるんだろう」という会話があちらこちらで聞かれるようになってきましたが、セミナーに足をお運びいただき、講師の先生方に頂いた知見をもとに、是非会員の皆様同士で情報共有をしてください。

新しいことへの挑戦は、常に時間と労力を要しますが、会員の皆様との意見交換は、サンクコストではなく、貴重な情報の蓄積だと信じております。是非、当学会のセミナーに足をお運びくださいませ。

報告 関西英語教育学会 第 57 回 KELES セミナー

開催日：2023 年 10 月 1 日（日） 会場：龍谷大学梅田キャンパス研修室

第 57 回セミナーは、生成系 AI の教育現場での可能性について、研究と実践の視点から考える機会となりました。講演 1 は、関西大学外国語学部の水本篤先生に、生成系 AI の効果的な活用についてご講演いただきました。講演 2 では、京都大学国際高等教育院の柳瀬陽介先生にご登壇いただき、AI を使うことによる対話的語彙学習課題についてご講演いただきました。教育に AI を取り入れることの効果とその意義を考えることができた機会でした。お申込み・ご参加いただいた 70 名の皆様に心から感謝申し上げます。

第 57 回 KELES セミナー

講演 1

「生成系 AI を活用した英語教育実践の可能性と課題」

講師：水本 篤先生

（関西大学外国語学部・外国語教育学研究科）

水本先生の講演は、生成系 AI をいかに外国語学習のツールとして活用していくかという問いに対し、大変具体的で示唆に富んだ内容の答えを提示された。まず始めに、先生が長年取り組まれてきたコーパスの教育利用 (Data-driven Learning) やツール開発についてお話しをされた。タスクベースの指導やパフォーマンス評価等、コミュニケーション重視の指導で課題となるエラー修正について、コーパスを活用したツールを使うことで気づきを起こさせることが可能であること、またツールを使うことは、教師が文法の説明をするより学習効果が高く、定着につながりやすいといった先行研究について紹介された。

さらに先生は、コーパスを活用したツールの課題である「何を検索したらいいのか分からない」という問題を解消してくれるのが ChatGPT であると切り出され、ChatGPT の仕組みについて説明された。「言語モデル」を利用している ChatGPT の強みとして、何を聞いても何か答えてくれるという点、何度聞いても怒らないという点、そして L1⇔L2 の壁を

越えやすくしてくれたという点をあげられた。弱みとしては、知識ベースではないため、事実に基づいた回答を期待することは難しい点、語の切り方が違うため語数のカウントが正確にできない点、記述統計ができない点等をあげられ、強みと弱みを理解した上で使うことが大切であると強調された。また ChatGPT があれば英語教師は不要なのか、という問いに対して、ChatGPT のアウトプットは平均値であり、平均値は教室にいるどの生徒にも当てはまらないこと、学習者やカリキュラムをよく理解している教師がガイド役として不可欠であると話された。

英語教育実践としては、教科書本文のパラフレーズや要約、ダイアログ⇔モノログといった書き換え、本文のオーラルイントロダクション作成、空所補充等の本文の加工、単語を指定してパラグラフの作成をさせるといったことから、生徒のライティングのフィードバックやルーブリックのたたき台作成まで幅広く活用できる。ただし教室で何を教えて何を評価するのか、教師が目の前の生徒のことを十分に理解した上で利用することが重要であると強調された。

さらにエッセイの自動採点における AI 言語モデル活用の事例を示され、入試の採点に使えるほどの精度ではないが、語彙・文法の多様性、複雑さ、結束性などの言語的特徴を入れると精度が大幅に上がるとお話しされた。また大学の授業でエッセイのピア・レビューと ChatGPT による校正をさせた結果、学生がクラスメートのフィードバックより ChatGPT のものを好むことが分かったという事例を示され、人間と ChatGPT を組み合わせることを提案された。

最後に、DDL には「ツールを使うのは学習者」という視点が欠けてきたと指摘された。ツールの使用は、学習ストラテジーを理解していることを示すものであり、学習者に多くのストラテジーを提供するには、教師がそれらのツールに慣れておくことが前提となるとお話しされた。

報告者：篠原 泰子（神戸大学附属中等教育学校）

講演2

「AI 活用の決定要因としての教育観と学習観 —英語学習者が「語彙学習では間違ふことが必要」と 自覚するまで—」

講師：柳瀬 陽介先生
(京都大学国際高等教育院)

「技術の利用」と「技術の倫理的使用」は異なる。そして「AIは何ができるか」から「人間はAIを使って何をすべきか」への思考変革が重要である。

テクノロジー使用の成果は、使用者の価値観によって大きく変わる。本講演は語彙学習を題材にして例証するというものであった。

話は少々飛ぶが、報告者自身は学部生の頃、教室内では誰も入手していなかった、最も初期の「電子辞書」を使っていたという世代である。当時、辞書を引くという作業にかかる時間が大幅に短縮されるという側面において「ずるいこと」をしているという自覚があり、先生方に電子辞書の使用許可を求めていることを思い出す。今の学生たちもAIに対し同様の価値観を持っているのであろうか、少々気になるところである。

他方、いかなる教育機関であっても組織は常に新陳代謝が繰り返されるものである。その中で、教員自身が新しい技術について行けなくなることが発生する頻度は極めて高いと言えよう。ChatGPTのような新しいAI技術についても、教員として可能な限りフォローしておく必要があることを痛感する。

AIの利用において過度に管理的・抑圧的な組織であれば、巡り巡って英語教育者・英語学習者にも波及し、その結果、消極的な利用ともなりうる。そして、どれだけ管理・抑圧によってAIの利用を制限しようとも、学習者自身がどこかでChatGPTを知り、その便利さを「悪用」することも十分に起こりうる。

今回の柳瀬先生のご講演はChatGPTの利用例として十分「倫理的に正しい」と考えさせられる内容であり、「英語学習者が『語彙学習では間違ふことが必要』と自覚するまで」の学習を、“co-pilot”であるChatGPTによってサポートできる可能性について紹介されていた。まさに副題の通りである。

具体的な事例として挙げられていたのは、アカデミック・ライティングを踏まえた文脈においてinvestigateとlook intoの違いをChatGPTに尋ねるという手法である。他にも少々違和感のある

The company investigated the problem. など、学生が書いてきた英文を、より学術的な英文に書き換えるには？という事例も参考になった。「読者がイメージできる文を作成させること」をライティングの指導の根幹とすべきとの指摘は目から鱗であった。

いわゆる「プロンプト・エンジニアリング」では、柳瀬先生ご自身の経験では、プロンプトの書き方として、(1)日本語ではなく、なるべく英語で書くこと(2)専門用語を挟み込みながら書くこと(3)試行錯誤しながら書くことで、より良い結果が得られるとのことであった。

ご講演の合間には会場内でディスカッションタイムと質疑応答・情報共有の時間が4回ほど設けられ、柳瀬先生の膨大な知識と経験に裏付けされたコメントが挟まれるという形式で行われた。

質疑は学部生からも寄せられた。「AI使用について非常に否定的な先生に対してどのように接したら良いか」という質問に対して、柳瀬先生の応答は次のようなものであった。「そういった先生との付き合いは単位獲得のための最小限のものにとどめ、授業外で自分でどんどんAIを使って英語を勉強してください。学びの主人公はあなたであって先生ではありません。」「年長者は年少者よりも概して知識が多いですが、大変革の時代には年長者の既存知識がかえって時代への適応の邪魔になることがあります。若い皆さんは、どんどん自分で未来を切り開くべきだと私は考えます。」いずれも至言である。

最後に付け加えておく。講師の柳瀬先生は大変に「まめ」な方であり、報告者が知る限りでは近年のほとんどのご講演をブログ「英語教育の哲学的探究3」において、資料とともに事前に撮影されたリハーサル映像を掲載されている。報告者の責任でもあるが、この記事では到底当日の臨場感の一端さえ伝えきれていない。是非とも柳瀬先生のブログをご参照いただきたい。今回のご講演のリンクは以下のとおりである。当日ご都合等でご参加いただけなかった方々にも是非ともご覧いただきたい。

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/10/ai.html>

今回のご講演に関連した別の記事も近日中に公開されるとのことである。是非とも参考にしたいと報告者自身も感じた、非常に有益な内容であった。

報告者：神谷 健一 (大阪工業大学)

関西英語教育学会 セミナーのご案内

第58回セミナーを11月12日(日)にオンラインにて実施致しました。多くの皆様にご参加いただき有難うございました。報告はまた後日致します。今後、下記のセミナーの開催を予定しております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第59回 KELES セミナーのお知らせ

日時：2023年12月17日(日) 13:00～17:00

会場：龍谷大学 梅田キャンパス研修室

https://www.ryukoku.ac.jp/osaka_office/access/

参加費：会員 無料、非会員 1,000円

参加方法：[事前参加申し込みフォームはこちら](#)

※当日参加も可能ですが、会員・非会員にかかわらず、できるだけ2日前(12月15日)までに参加申し込みをお願いします。



※非会員の方は、事前に参加申し込みをした上で、当日受付で参加費をお支払いください。

テーマ：「効果的な英語音声・スピーキング指導法」

講師・講演タイトル：

中川 智皓先生 (大阪公立大学)

「スピーキング力向上のための即興型英語
ディベート」

静 哲人先生 (大東文化大学)

「音声指導の心・技・体 ～音連続とリズム
可視化のための英文マークアップの試み～」

ご講演内容の詳細は、[KELES ウェブサイト](#)にてお知らせいたします。

第27回卒論・修論研究発表セミナーのお知らせ

日時：2024年2月12日(月・祝) 9:30～17:30

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

参加費：KELES・JACET・LETいずれかの会員であれば無料、上記学会の非会員は500円

発表申し込み〆切：2024年1月19日(金)

当日はスペシャル・トーク講師に望月正道先生(麗澤大学外国語学部 教授)をお迎えして、ご講演いただきます。卒業論文・修士論文を完成させた暁には、ぜひこちらでご発表いただき、将来の英語教育をともに考える同志たちとの語らいの場としていただけたらと思っております。学生の研究指導をご担当の先生方におかれましては、ぜひ発表をお奨めいただけましたら幸いです。

なお、本セミナーでのご発表は学会発表としてカウントされませんので、他学会でご発表済み、またはご発表予定のご研究についても、奮ってご発表ください。

発表者はKELES会員である必要はありません。詳細は同封のフライヤー・[KELES ウェブサイト](#)をご覧ください。

学会事務局からのお願い

メールアドレスのご確認お願い

このニュースレターは、PDF化して会員様宛に一斉メール配信をしております。もしもこのニュースレターがメールで届いていない場合は、迷惑メールに入っていないかどうかご確認ください。また、現在使われていないメールアドレスを登録されている会員様もいらっしゃる為、「送り先不明」で戻ってくる場合もございます。お手数ですがkelesoffice@gmail.comまで、改めてメールアドレス

スをお知らせください。また、その際にはお名前、ご所属先も必ず記載していただきますよう、お願いいたします。

会費納入のお願い

本年度の会費の納入がまだの方は、急ぎお振込みをお願い致します。お振込先は、以下のウェブサイトでご確認いただけますよう、お願い致します。
<http://www.keles.jp/join/>